



平成 21 年度新事業創出・販路開拓ネットワーク整備・活用等事業

2009 年 12 月 29 日発行

# 展示会・見本市レポート第36号

発行：全国商工会連合会

編集：(財) 日本立地センター

協力：全国イノベーション推進機関ネットワーク

## 第1回 国際エクステリア EXPO(EXTEPO2009)

会 期	2009年11月11日(水)～13日(金)
会 場	幕張メッセ
主 催	日本フローラルマーケティング協会、リード エグジビション ジャパン
事務局	( <a href="http://www.extepo.jp">http://www.extepo.jp</a> )
出展者数	855社
出 展 料	1小間(3m×2.7m)=420,000円(税別)
来場者数	31,928名
募集期間	2008年10月～2009年8月末
出展業種	切花・鉢物・種苗、花材・包装資材、栽培機器、肥料・農薬、低温倉庫・冷蔵コンテナ、造花・ドライフラワー・新素材フラワー、フラワーリビング、鉢・園芸用品、家庭菜園用具、緑化資材、ガーデン雑貨、灌水装置、エクステリア製品、ガレージ・物置・ログハウス、和風庭園、アウトドアリビング、ブロック・レンガ・石材、表札・ポスト 等
来場者の職業	生産者、農協、種苗、花き輸出入商、花材メーカー、生花店、園芸店、量販店、小売店、バイヤー、造園・設計・施工、販工店、工務店、商業施設施工主、ホームセンター、通販、建材商社・卸商、エクステリア商社、ディベロッパ、ハウスメーカー、ホテル・レストラン 等
同時開催	第6回国際フラワーEXPO、第3回国際ガーデン EXPO
次回開催予定	2010年10月28日(木)～30日(土) 幕張メッセ

発行：全国商工会連合会 企業支援部 市場開拓支援課 03-3503-1256

編集・問い合わせ：(財) 日本立地センター 新事業支援部 03-3518-8964

## ◆ 時流商流 ◆

### 独立展として初めて開催

第1回開催となった同展は、過去2回にわたって開催した「国際ガーデン&エクステリア EXPO」の結果、出展者と来場者からの要望の強かった「エクステリア」にスポットを当てて、独立した展示会として開催することにしたものの。展示会には「庭」を構成するアンティーク石材、LEDガーデンライトなどの商品が国内外から顔を揃えた。

展示会で注目を集めてたのは「アウトドア リビングゾーン」。ウッドデッキ、オーニング、ガーデンファニチャー、キッチンガーデンやデザイン性のある子供用遊具、ホワイトサンドの砂場などが、来場者の眼を引いた。

また、地球温暖化対策で脚光を浴びている「エコ商材」が、出展物にも色濃く映し出されている。太陽光発電のガーデンライトをはじめ、廃ガラス瓶の舗装材、合成木材など工夫を凝らした商品が会場を賑わした。



### 期待されるエクステリア市場

同時開催展と同様、主催者が出展者を満足させる際立った集客と商品の販促サービスに力を入れているのも特徴だ。例えば主催者によると、国内外の来場対象者に210万枚の招待券を送付。

さらに会期直前、3万人の業界関係者に出展者の商品写真と会社情報を配信。マスコミ用として、プレス向け「出展商品情報」を無料で送付するなどのサービスを提供する念の入れようだ。

開催内容を見る限り、今後、ガーデニング、家庭菜園、環境保護への関心の高まりを背景に、同時開催展を含めたエクステリア市場の広がりが期待されている。

次頁からは、本展示会の中でもユニークな取り組みを行っている地域のブースを紹介する。



## ◆ ブース細見 ◆

### 低い吸水率した床材をPR

★出 展 目 的 : PR

★代表商品の価格:「黒陶いぶし S17MS」(1枚)=1,124円(税込み)

兵庫県南あわじ市のミハラ (<http://www.ibusiyaki.com>) は、新商品のエクステリア床材「黒陶いぶし」のPRのため初出展した。

同社は鬼瓦を主力商品とする瓦メーカー。黒陶いぶしは、天然素材の粘土を高温焼成し、同社製敷き瓦の吸水率8~10%に比べ、1~3%という低い吸水率を実現した新商品。

寒冷地でも水分が凍結して床材が破壊されることがなく、耐摩耗性にも優れているため、ガレージの床材などに最適という。

工務店、建築設計事務所、商社、問屋の販路を開拓する。南あわじ市商工会の会員。



### 400年の伝統活かした瓦の載置台PR

★出 展 目 的 : PR

★代表商品の価格:瓦載置台「ドームA」=4,500円(税込み)

南あわじ市のまるか産業 (<http://www.marukanet.jp>) は、創作瓦のインテリアグッズ「載置台」をPR。

淡路の神社、仏閣などに使われてきたいぶし瓦は、400年の歴史がある伝統産業。しかし、阪神大震災の影響や屋根に取り付ける太陽光発電の普及に伴い、いぶし瓦の需要も低迷しているという。

同社は垣保社長が1998年に個人でいぶし瓦の新規事業を始めて2006年に独立し、本格的に商品化した。ネット通販に続き、展示会で販路開拓する。

## 常滑焼のタンドール窯の販路開拓

★出 展 目 的 :PRと市場開拓

★代表商品の価格:常滑焼簡単石窯セット「ガーデンオープン」=346,500円(税込み)

愛知県常滑市の山文製陶所 (<http://www.toko.or.jp>) は、「食と常滑焼」をキーワードにパン、ナン、ピザ焼き窯「タンドール窯」の販路を開拓。

江戸時代末期のペリー来航の頃、焼酎の窯元として創業。古くから水がめ、漬物がめなどの焼物を通じ、食との関わりが深い。

ガーデニングブームを背景に植木鉢などの生産を手掛けていた。しかし、輸入品が増えてきたため、2年半前に常滑焼の伝統技術と常滑の粘土を使い、タンドール窯の生産を始めた。無駄な放熱を抑え、優れた省エネ性を実現したという。

製品構成は家庭用と業務用の2種類。家庭用には野外でインド料理を楽しむポータブルタイプもある。

展示会ではPRを兼ねて市場を開拓。



## ガーデニング用工芸品の販売店募集

★出 展 目 的 :販売店募集

★代表商品の価格:「ウィチズガーデンシンク」(100×50×185cm)=300,000円(税別)

北九州市のナベシマ (<http://www.nabeshima.jp>) は、ハイブリッド樹脂を材料にしたガーデニング用工芸品「PUクラフト」を本格販売するため出展した。展示会では、販路開拓とともに販売店を募集する。

1982年にコンクリート製の「PCギ木」の製造・販売会社としてスタート。現在でもPCギ木を主力事業としているが、新たにガーデニング用品事業に参入することにした。PUクラフトはポリウレタンとポリウレアのハイブリッド樹脂を材料にしたもの。レンガフレーム、擬岩、パラソル支柱(ぐるぐるポン)、丸太などを商品化。産学連携で屋上緑化、ベランダ菜園の新商品レンガ・枕木フレームをテスト中。